



日本宣教ニュース

NO.1 2014年 7月

東京基督教大学
国際宣教センター
日本宣教リサーチ
発行人 山口 陽一

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」（コロサイ 1：6）

【巻頭言】

「日本宣教リサーチ（Japan Missions Research）発足」

日本宣教リサーチ代表 山口 陽一

日本宣教に関する研究は、各教団・教派の宣教研究所や委員会などにおいて長年積み重ねられており、その成果を数えれば枚挙に暇がありません。東京ミッション研究所や信州夏期宣教講座のように特色ある活動も盛んで、近年では日本宣教学会が幅の広い研究をなさっています。それに何を加えることができるかという思いもあります。

しかし、福音主義・超教派・実践的神学教育・世界宣教を「建学の精神」に掲げる本学に博士後期課程までの大学院が設置される中で、この分野における貢献を果たすべく、長く教会データの集積をして来られた教会インフォメーションサービス（CIS）の働きを継承し、「日本宣教リサーチ」が発足いたしました。4月以降、継続・新規の支援および期待の言葉をいただき、身の引き締まる思いで活動を行ってまいりました。

まず、日本宣教を検討する上での基礎資料となる教会データの集積と分析を行いたいと思います。古くは日本基督教連盟の『教勢調査報告』（1928年）のような、教派を超えて日本のキリスト教の全体を考察するための素材を提供したいと願っております。

日本宣教に関する研究と取り組みは、本学においても教会教職課程カリキュラム、教会教職特別セミナー、国際宣教センターの日本宣教コンサルテーション、実践神学研究会などにおいて重層的に行われています。また2014年度の世界宣教研修セミナー（9～11月）では、グローバル化した世界における日本宣教の諸課題を扱うことになっています。冒頭に述べた通り、日本宣教研究には先行するさまざまな取り組みがあります。そこで日本宣教リサーチは、超教派の神学大学の研究所に設置された研究機関として、さまざまな成果を結び合わせるハブ的な役割を果たすこと、加えて実践的な提案をすることを目標にしたいと考えております。

この3カ月間、専門委員を中心として業務に取り組んでまいりましたが、その手始めとなる作業がこの「日本宣教ニュース」の発行でした。関係する教団・教派や各団体の皆様には、急な依頼にもかかわらず、快く資料提供をしていただき、心より感謝申し上げます。まだ手探りの部分がありますが、ここに第1号をお届けいたします。今後さらに皆様からのご意見・ご要望等も伺いながら、実際に役立つニュースにして行きたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

各新聞記事から【2014年4月～6月】

キリスト新聞、クリスチャン新聞、 聖公会新聞

4月

◇「連帯と対話」主題に神学セミナー

2月13～14日、関西学院大学神学部主催の第48回神学セミナーが「連帯と対話」を主題に開催され、学生や教員、卒業生ら100名超が参加した。(キ5日付)

◇「TPC女性メッセンジャーの会発足」

教会には圧倒的に女性が多いのに、神の言葉を伝える働き人は男性に偏りすぎているのではないか——そんな問題意識から、このほど東京プレーヤーセンター(TPC)内に「TPC女性メッセンジャーの会」が発足、3月21日、お茶の水クリスチャン・センター4階にある同センターで設立最初の会が開かれた。TPCで毎日行われているお昼の礼拝に、女性メッセンジャーを選定し増強するほか、ネットワーク構築に力をいれていく。(ク6日付)

◇「教会と福祉」フォーラム21が創設

少子高齢化、経済格差など様々な社会問題を抱える日本、受洗者数の減少や閉鎖・合併が相次ぐ教会、クリスチャン率が減少するキリスト教福祉施設。社会、教会、施設それぞれが課題を抱えている。このような中で、教会やキリスト教福祉施設が連携し、宣教を問い直す「教会と地域福祉」フォーラム21が創設され、3月21日にキリスト新聞社主催の創設記念のシンポジウムが日基教団富士見町教会で開かれた。(ク6日、キ12日付)

◇新会堂で催し続々(大野キリスト教会)

3月に新会堂をオープンしたバプテスト教会連合大野キリスト教会は、3月15日から、イースターの4月20日まで、多種多様なイベントを連ねたウェルカム・フェスを企画し、地域の人々を招いている。(ク6日付)

◇交わり生かすリーダー論の翻訳刊行

日本バプテスト教会連合では、所属する教会を対象に、2011年からパスターズスクール(福井誠代表「玉川キリスト教会牧師」)を開いている。同スクールでは「変革型リーダーシップ」を土台にし、参加者は自らの教会の働きを検証し、ビジョンを練る。このほどテキスト

となる『リツール・キット 教会の働きを活性化するワークブック』2冊が翻訳刊行された。(ク13日付)

◇次世代用伝道ツール:ワンホープ

青少年を対象にした国際的な文書伝道団体ワンホープは、ショートドラマ集DVD「ジャンクションフィルムシリーズ」や高校生・大学生向けの「ブック・オブ・ホープ」に加え、小学生向けの「君のブック・オブ・ホープ」、マンガ『メサイア』のダイジェスト版冊子等、日本の社会、実情に対応した伝道ツールを制作している。(ク13日付)

◇古典芸能で描く“普遍性”

3月11日、東京・渋谷の観世能楽堂で、『能一聖パウロの回心』と『ゴスペル・イン・文楽—イエスキリストの生涯』が上演された。古典芸能の描き出す聖書の世界は、イメージ豊かで刺激的なメッセージにあふれたもので、伝統と型を大切に700年間続いてきた能楽から、日本の教会、キリスト教界への新たな挑戦を受けた。(キ19日付)

◇第6回日本伝道会議のテーマ決定

4月3日、2016年9月27日～30日に神戸コンベンションセンターで開かれる第6回日本伝道会議(JCE6)の神戸パートナー会議が開かれ、会議のテーマ・理念と今後の方向性が示され、テーマとしては「再生へのRe-VISION～福音・世界・可能性」に決まったと発表があった。(ク20日付)

◇いっしょに歩こう!プロジェクト

日本聖公会東日本震災被災者支援「いっしょに歩こう!プロジェクト」は2011年4月29日の発足以来、全国の協会、信徒のみならず世界の聖公会から大きな支援を受けながら活動を続けてきたが、当初からの予定通り、2013年5月で活動を終えた。これらの活動記録は、小冊子『いっしょに歩こう!プロジェクト2年間の歩み』として纏められ、この度刊行された。(聖25日付)

◇キリスト教章授与式

3月16日、新潟聖パウロ教会にて、新潟第5団ボーイスカウト4名に対し、日本聖公会キリスト教章授与が行われた。(聖25日付)

◇メディア伝道の可能性を探る

4月12日、CLC御茶の水店で、太平洋放送協会と同店とのコラボ企画による「届いているか、届いていないか、それが問題だ」とのタイトルのイベントが、岩井基雄師と福井誠師をゲスト

に、メッセージ集の出版を記念して開催された。
(キ 26 日、ク 5 月 11 日付)

◇ 東京基督教大学に「日本宣教リサーチ」発足

「日本宣教リサーチ」は、1980 年から 33 年間、宣教団体の宣教地リサーチや教勢データの収集と分析を行ってきた「教会インフォメーションサービス」の働きを継承し、教勢データの分析や包括的な宣教方策の研究等を通して、日本宣教と日本の教会が直面する課題に対し、根本的かつ現実的な提言を行うことを目的とするもので、東京基督教大学国際宣教センターに、4 月から設置された。(キ 26 日、ク 5 月 4 日付)

◇「希望のフェスティバル」本大会へ祈り結集

5 月 9 日から 11 日まで、1 万人規模のアリーナ「北海きたえーる」で、ビリー・グラハム伝道協会と北海道の教会との協力により、北海道でも全道規模の伝道大会としては初めての「北海道・希望のフェスティバル」が開催される。4 月 27 日、大会直前全道決起大会が、ホテルさっぽろ芸文館で開催された。(ク 27 日付)

◇ 4・14 運動日本で決起の祈り

信仰決心者の 71% という統計がある 4 歳から 14 歳までの年代へのミニストリーを優先的に考える世界的な運動「4・14 運動」が、日本でも本格的に始まった。児童伝道関係者でサーバントチームが結成され、4 月 14 日お茶の水クリスチャン・センターで「4・14 運動のビジョンと祈りの集い」が開かれた。(ク 27 日付)

5 月

◇ 日基教団 東日本大震災国際会議を開催

3 月 11 日から 14 日まで、日本基督教団は初めての国際会議、東日本大震災国際会議を、東北学院大学を会場に開催。主題「原子力安全神話に抗して—フクシマからの問いかけ—」のもとに、10 カ国の海外教会からの代表 60 人が参加して、講演、報告、パネルディスカッションなどのプログラムが行われた。(キ 3 日付)

◇ 牧会塾が総決算し 9 月から新たなクラスを開講

牧師と配偶者の継続教育とケア、信徒の信仰成熟の場として 2009 年から 5 年計画でスタートした牧会塾が区切りの年を迎え、4 月 21 日「感謝報告会」がニコライバレホールにて行われた。今後 5 月から 7 月までは「総決算のクラス」を開講し、9 月から新たに「牧会塾 P L U

S シーズン 2」として 11 クラスが開講する。
(ク 4 日、キ 10 日付)

◇ W杯伝道に向け「ポケットガイド」発売

4 月 11 日、日本におけるスポーツミニストリーネットワークの会合が、本郷台キリスト教会で開かれた。6 月からブラジルで始まるワールドカップに合わせて制作されたクリスチャン選手たちの証し等を掲載するスポーツ伝道冊子「ポケットガイド」が紹介された。今後、東京五輪も視野にネットワークを広げていく。(ク 4 日付)

◇ 超教派青年宣教大会 J+Passion 東京 2014

4 月 29 日、東京ライトハウスチャーチで、超教派青年宣教大会 J+Passion 東京 2014 が「教会に感激」をテーマに開催された。講師の藤本満師、万代栄嗣師が、教会の魅力を聖書から勧め、献身を募った。(ク 11 日付)

◇ 第 52 回「首都圏イースターのつどい」

4 月 27 日、第 52 回「首都圏イースターのつどい」が淀橋教会を会場に行われた。当日会場に集まった 500 人の参加者は、救世軍スタッフバンドの演奏、連合聖歌隊の賛美とともに、主の復活を祝った。(ク 11 日付)

◇ 放送伝道特集

コミュニティ放送局「レインボータウン FM」(東東京エリア)を通して、言葉の大切さとキリストの愛を届ける番組「幸せ deNight!!」(毎週日曜午後 10 時～)、及びラジオ関西、山陽放送、山陰放送で放送されているラジオ・福音放送ルーテル・アワー「心に光を」、また説教、賛美、祈り、黙想、子ども向け、青年向け、コラム、ニュースなど、様々なキリスト教番組を制作し、衛星放送を通して毎日 24 時間放送している日本クリスチャン・グローバル・ネットワーク TV 等が紹介されている。(ク 11 日付)

◇ キリスト教合唱音楽を通し福音宣教を

立教学院新座キャンパスにある聖パウロ礼拝堂の三つの聖歌隊指揮者であり、合唱指揮を通して福音宣教に取り組んでいる小口浩司氏に、福音宣教の手段としての音楽の可能性についてインタビューした。(キ 24 日付)

◇ 宗教超え、石巻市に「祈りの杜」完成

東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市で、宗教の垣根を越えた祈りの場所として、浄土宗西光寺の墓地の駐車場一角に「祈りの杜」がつけられた。敷地内には神道、仏教、イスラム教、キリスト教など各宗教のモニュメント計 10 個

が設置され、4月22日、各宗教の代表者が参加してセレモニーが行われた。(キ24日付)

◇「希望のフェスティバル」開催

5月9日から11日まで、「北海きたえーる」において、ビリー・グラハム伝道協会のグラハム総裁をメイン講師として開催された。期間中3回の「フェスティバル」「レディース・ランチョン」「子どもフェスティバル2014」が行われ、延べ1万6千人が参加、約千人が招きに応じた。(ク25日付)

◇「バプテスマ連盟憲法フェスティバル」開催

戦争ができる国づくりに反対しようと、5月3日、日本バプテスマ連盟「憲法改悪を許さない私たちの共同アクション担当者会」と同北関東・東京・神奈川の各地方連合社会部は、「憲法フェスティバル2014」を、中目黒の恵泉バプテスマ教会で開催し、約120名が参加した。(キ24日、ク25日付)

◇ヴォーリズ召天50周年恒春園記念式開催

5月10日、近江兄弟社の創立者で信徒伝道者であったウィリアム・メレル・ヴォーリズ召天50周年を記念して、近江八幡市近江兄弟社学園・ヴォーリズ平和礼拝堂で、近江兄弟社関係者の召天者を偲ぶ第85回恒春園記念式が行われた。(ク25日付)

◇クリストファー・サン氏、OCCに事務所開設

4月27日に大阪女学院ホールチャペルで開かれた第34回大阪府民イースターで、世界各地で福音を語り続けている中国系アメリカ人伝道者、クリストファー・サン氏が「復活の勝利」と題して力強くメッセージを行った。また、サン氏は4月から関西での宣教拠点として、大阪クリスチャンセンター(OCC)に事務所を開設した。(ク25日付)

◇日本聖公会総会

5月27日～29日に日本聖公会センターを会場に日本聖公会第61総会が開催される。審議される主な議案は、①祈祷書の一部改正の件、②祈祷書改正準備委員会設立の件、③ハラスメントに関する担当者設置の件、④女性の聖職者に関わる諸問題についての調整と検証・提言のための特別委員会設置の件、⑤ヘイトクライム、ヘイトスピーチの根絶と真の多民族・多文化共生社会の創造を求める日本聖公会の立場を採択する件。(聖25日、6月25日付)

6月

◇シンポジウム「分断と憎しみを超えて」

5月20日、宗教者たちの協力により、東京港区の国際文化会館で、シンポジウム「分断と憎しみを超えて」(同実行委員会主催)が開催された。北アイルランドや韓国から講師を招き、分断と憎しみについて霊性と具体的な活動の側面から報告を受け、議論した。(ク1日付)

◇バルメン宣言で考える現代社会と教会

ドイツ・ナチス独裁政権下で発せられた教会の信仰告白、バルメン宣言。現代日本政治とナチスを比較する中で注目を集め、関連する講演も相次いだ。4月26日、新教出版社創立70周年連続神学講演会にて、宣言の、社会構造の変化を踏まえた現代への適用を政治学者の宮田光雄氏が、また、4月29日、2014年度ヤスクニ学習会で、告白教会闘争から何を学ぶかを牧会者の立場から朝岡勝氏が語った。(ク1日付)

◇映画『ノア 約束の舟』監督記者会見

各国で話題となった米映画『ノア 約束の舟』が、6月13日からロードショーになるのにあわせて、アロノフスキー監督が来日。5月14日、都内で記者会見を行った。(キ7日付)

◇新改訳聖書全面改訂が編集段階へ

5月19日、新改訳聖書の改訂による新しい翻訳聖書の刊行事業に取り組んでいる新日本聖書刊行会は、第10回教会代表委員会で、旧新約の一部を抜き刷り組版した「サンプル版」を教会代表委員らが読み、意見交換した。14年度はいよいよ編集段階に入る。(ク8日付)

◇クリスチャン県人会開催

ふるさとのために祈り合う、クリスチャン都道府県人会は日本の各地方ごとに集会を開いてきたが、海外日本人伝道のネットワークを生かして、アジア、中東、ヨーロッパ在住の日本人を愛する集会を開いた。アジア、中東についての集会は、4月19日、JEC A永福南キリスト教会で、ヨーロッパについての集会は、5月7日お茶の水クリスチャン・センターで開催された。また、「『関東』を愛する集会」が、5月7日、お茶の水クリスチャン・センターで開催された。(ク8日付)

◇ロゴス・ホープ号長崎、金沢停泊

5月、長崎出島港、金沢港に初寄港した、世界最大の洋上書店を備える「ロゴス・ホープ号」に、長崎では3万3千323人、金沢では4万6千411人が訪れた。一方、地域の人々や教

会にはクルー（船員）のチームが派遣され、国際交流プログラムが開かれた。またクルーの救いや乗船に導かれた証し、クルーとの交流を通じて神様を信じる人も起こされた。（ク 8 日付）

◇ ICUキリスト教週間で内田樹氏講演

国際基督教大学は、5 月 19 日からの一週間を「C-Week」として、ワークショップや新しい礼拝の試みなど、キリスト教を土台とするさまざまな企画を展開。21 日には作家の内田樹氏を招いて特別講演会を行った。（キ 14 日付）

◇ 教文館で「村岡花子」展

NHK連続テレビ小説「花子とアン」の放送で、『赤毛のアン』翻訳者でクリスチャンの村岡花子にスポットが当たるなか、花子がかつて編集者として仕事をしてきた銀座教文館の 9 階ウェンライトホールで、「花子とアンへの道村岡花子 出会いとはじまりの教文館」が、5 月 31 日から始まった。6 月 4 日には、絵本ドラマの原作『アンのかごー村岡花子の生涯』の著者、花子の娘みどりの次女にあたる村岡恵理さんを招いてのトーク&サイン会も行われた。（ク 15 日付、22 日付、キ 28 日付）

◇ クリスマン共同墓地建設

東日本大震災で親族を亡くしたクリスマンが、親族の墓地計画をきっかけに、山梨県内の教会と共同して、様々な理由で墓で困っている人や、遺族がクリスマンではなくとも、墓地の理念を受け入れる人には、安価で利用できる共同墓地「命の門」を建設した。（ク 15 日付）

◇ 本郷台キリスト教会創立 50 周年記念式

4 月 20 日、今年創立 50 周年を迎えた J E C A本郷台キリスト教会は、大船の鎌倉芸術館にて「創立 50 周年記念セレブレーション」を開催した。（ク 15 日付）

◇ 日本聖書協会、新翻訳作業 40%終える

5 月 15 日に東京で、5 月 22 日には大阪で開催された聖書事業懇談会において、日本聖書協会の総主事である渡部信氏は、2010 年から本格的に始められた新翻訳事業が、現在およそ 40%は終え、2018 年完成を目指していると語った。（キ 21 日付）

◇ 恵泉女学園大学で荒井献氏が講演

5 月 31 日、恵泉女学園大学の講演会で、元学長でもある新約聖書学者の荒井献氏が「キリスト教の再定義に向けて—新約聖書学の視点か

ら」と題して講演。120 人弱が出席した。（キ 21 日付）

◇ 盲伝による音の雑誌『おとずれ』

日本盲人キリスト教伝道協議会が 1971 年から発行してきた音の雑誌『おとずれ』が、昨年 8 月をもって 42 年の歴史に幕を閉じたが、5 月 27 日、戸山サンライズで感謝会が開かれ、約 30 人が思い出を振り返った。（キ 21 日付）

◇ 第 3 回日本ローザンヌ委員会シンポジウム開催

6 月 7 日、世界的、全教會的な宣教運動、ローザンヌ運動を日本において考える日本ローザンヌ委員会シンポジウムの第 3 回が、お茶の水クリスマン・センターで開かれた。テーマは「Back to HIS Love～真実な愛に歩む教会を目指して～」（ク 22 日付）

◇ キンバーランド高座教会礼拝堂献堂式

教会がスタートして 68 年目になるキンバーランド長老キリスト教会高座教会は、6 月 7 日、礼拝堂をリニューアルし、献堂式礼拝、感謝会が開かれた。（ク 22 日付）

◇ 教会と国家学会で木村利人氏が講演

6 月 6 日、衆議院第一議員会館で行われた教会と国家学会の講演会で、早稲田大学名誉教授木村利人氏が「憲法といのちを考える—前文を手がかりとして」と題して講演を行った。（キ 28 日付）

◇ 日基教団有志で「戦争をゆるさない東京キリスト者の会」設立

安部政権の集団的自衛権等の動きを憂慮して、6 月 17 日、日本基督教団の有志らは、約一年間の準備を経て、「戦争をゆるさない東京キリスト者の会」を設立し、日基教団信濃町教会にて設立総会と参議院議員糸数慶子氏を招いての講演会を開いた。（ク 29 日付）

◇ サッカーW杯日本代表をみんなで応援

次世代（子ども、ユース）の伝道と育成に力を注ぐ単立みどり野キリスト教会は、6 月 15 日の父の日、日本対コートジボワール戦を、普段教会に足を運んでくれないお父さん方やユースたちと、200 インチのスクリーンを用いて、みんなで日本代表戦を応援した。観戦後は、父の日のお祝いを兼ねてプレゼントとスペシャルランチを用意し、ゴスペルメッセージを伝え、福音を届けるひと時となった。（ク 29 日付）

◇ 共働学舎新得農場開設35周年

聖書を土台にし、心や体に不自由さを覚える人々とともに共同生活を送る N P O 法人「共働

学舎」は、その拠点の一つ、新得農場の開設35周年報告会を、6月7日、新得町の公民館で開催した。当日は、全国から集まった共働学舎関係者のほか、地元の新得町長や北海道議会議員、農業関係者など、約300人が出席した。(ク29日付)

◇ 三浦綾子読書会伝道講座開催

6月13日、三浦綾子の文学を伝道的手段として活用するための、会の運営等の具体的な内容の伝道講座が、日本同盟基督教団麻布霞町教会で、三浦綾子読書会主催にて開かれた。講師は代表の森下辰衛氏。(ク29日付)

◇ サッカーW杯開催に合わせ被災地に伝道ツール

サッカーW杯開催に合わせ、日本におけるスポーツミニストリーネットワークの有志が、6月11日から13日にかけて、宮城県、岩手県の被災地支援をしている教会に、『サッカーバイブル THE GOAL』2千冊、「ポケットガイド」2千枚、DVD「Under Pressure」200枚を配布した。(ク29日付)

◇ 10年後のキリスト教会のために

5月25日、大阪阿倍野区民センターで、キッズ&ファミリーサポートミッション主催のプロジェクト2024「10年後のキリスト教会のために」が、ビル・ウィルソン氏らを講師に迎え、約200人の参加者が出席して開催された。参加者は、次世代育成へのビジョンとパッションを新たにした。(ク29日付)

(キ：キリスト新聞、ク：クリスチャン新聞、
聖：聖公会新聞)

【文責：柴田 初男】



各雑誌記事から【2014年4月～9月】

4月

「百万人の福音」

◇ イースター特集：どうする？お墓の問題

1. お墓をめぐるQ&A (答える人 松岡広和)、2. 仏教とキリスト教 葬儀とお墓のあれこれ、3. イマドキのお墓事情を聞く (クリスチャン共同墓地「園の墓」代表 中川健一、エクレシアサポート(株)代表 榊哲夫)、4. 骨のきずなで福音を伝える (土浦めぐみ教会)

「信徒の友」

◇ 特集：50年の継承—過去・現在・未来

1. 『信徒の友』の果たした役割とこれからの使命、2. <年譜>『信徒の友』50年の歩み、3. 「信徒の神学」の提唱者 隅谷三喜男

「福音と世界」

◇ 特集：創造された世界——その現代的意味

1. 環境危機の時代に聖書を読む、2. 自然

「舟の右側」

◇ 特集：東日本大震災から3年

- ・被災地に住む人々の悩みと希望
- ##### ◇ シリーズ 社会の今を知る：児童養護施設からの“巣立ち”支援 NPO法人ブリッジフォースマイル

「HAZAH」

◇ 特集：ホームカミング2

1. 白い家フェローシップチャーチの奇跡 (前編)、2. ホームカミング (神の御顔を慕い求める祈り会) ミニ版、3. 日本に対する神のご計画

「福音宣教」

◇ 特集：希望への物語4・いわき

1. 私と東日本大震災、2. ただひたすらに地の塩として、3. 「安全」と「安心」結ぶ米づくり、4. いわきの漁業の現状について

「福音と社会」

- ◇ 現地詳報：教皇フランシスコ就任1年の総括と展望、◇ 深層レポート：日本教会と「新求道期間の道」との和解は可能か

「羊群」

- ◇ 特集：大きな困難に遭った時
- ◇ 特別寄稿「苦しみに遭ったことは」

5月

「Ministry」

◇ 特集:信徒力をはぐくむ

1. 私の教会はどのタイプ〜「信徒力」チェックリスト、2. 牧師と信徒のチームワーク3類型、3. 記者が見た「信徒力」の現場、4. 教会でチームビルディング、5. まとめ

◇ 座談会:「教会と地域福祉」の未来

「季刊 教会」

◇ 巻頭論壇:倫理問題としての原発

◇ QK論文

1. 近代日本の伝道者に聞く その1 植村正久、2. 聖書と文学 その1 本当は信仰深いハイジの物語、3. チャールズ・ホッジの教会論再構成、4. 東京一致神学校の神学教育、5. 創造への問い その8 創造のエネルゲイア

「百万人の福音」

◇ 特集:愛の章を知っていますか

1. 現代社会と愛をめぐる、2. ダミアン神父、真実の愛に生きた人 舟喜ふみ、メッセージ:愛はすべてを覆う

「信徒の友」

◇ 特集:信徒と歩んだ50年

1. これまでの50年、これからの50年、2. わたしと『信徒の友』、3. 表紙に見る50年、4. 読者アンケートから

「福音と世界」

◇ 特集:創造された世界——その現代的意味

1. 環境危機の時代に聖書を読む、2. 自然に関する神学的な語り、3. 被造物、創造主、そして原子力、4. 神を忘れた良心は麻痺し、土を離れた生命は枯死する、5. ハム屋の創造物語、6. 「気候難民」とキリスト教

「舟の右側」

◇ 特集:東日本大震災と「福音」

1. 「傷」に注がれる神の愛、2. 馬小屋で生まれた女性、3. 「福音にこそ力がある」

◇ シリーズ 社会の今を知る:「DV加害者」も変わる

「HAZAH」

◇ 特集:ホームカミング3

1. ホームカミング世界的な動き、2. 白い家フェローシップチャーチの奇跡(後編)

「福音宣教」

◇ 特集:希望への物語5・岩手

1. 神の臨在、2. 廃墟に立ちつくす神、3. 今までの歩み、4. 被災地「大槌町」において、5. 足がかりもありません

「羊群」

◇ 特集:死への備え

6月

「百万人の福音」

◇ 特集:尹 東柱—私に与えられた道—

- 尹東柱の詩／評伝／尹東柱との出会い／一粒の麦となって〜民族の尊厳と信仰に殉じた詩人〜
- ◇ 旬人彩人:「憲法9条にノーベル平和賞を」発起人 鷹巣直美

「信徒の友」

◇ 特集:ペンテコステ 宣教の嵐

1. 聖霊の業としての宣教、2. 「生命の神よ、導いてください」—WCC総会開かれる、3. 世界との出会いの衝撃

◇ 東日本大震災から3年

1. 東日本大震災国際会議報告②、2. 3年後の被災地から、3. 被災地支援常勤スタッフ「座談会」、◇ 青年たちの新しい運動の始まり「差別おとといきやがれ！」

「福音と世界」

◇ 特集:神の像のごとくに—人間を神学する

1. 「神の像(かたち)」に、2. 自己への回帰、3. あなたは誰と共に生きるのか、4. サワリ、5. 姿なき「いのち」へのまなざし

「福音宣教」

◇ 特集:希望への物語6・二本松・須賀川

1. はかり縄は福島のに、2. 大地の恵み、労働の実り、3. 雲と罪をていねいに見つめる、4. 多くの人の祈りと献金に支えられて

「舟の右側」

◇ 特集:原発事故と「福音」をめぐる

1. 故郷を追われた人々の今、2. 原発は隣人愛の戒めに叛く、3. フクシマを覚えた福音の再発見、4. 東日本大震災国際会議 日本基督教団 原発の罪を告白

◇ シリーズ 社会の今を知る:回復の道を歩み始めた人々 DV加害者更正プログラム

各教団・教派、宣教団体の 機関紙・ニュースから

「HAZAH」

◇ 特集:リバイバルの足音

1. リバイバルへの飢え乾きの始まり、
2. 東京リニューアル、3. カジマ聖会、
4. ホームカミング聖会、5. ハイディ・ベーカー聖会、

- ◇ 1. 本文批評学の中の光と闇 5、
- 2. 創造と福音「日本人の心の拠り所」

「羊群」

◇ 特集:「信仰」は社会に通用するか

- ◇ 特別寄稿「神に導かれて」

4月

「JEAニュース NO.45」

(日本福音同盟)

1. JEA活動報告、2. 牧師の本棚:福音主義とは何か、3. JEA宣教フォーラム・福島報告

「世の光 NO.763」

(日本同盟基督教団)

1. 第65回教団総会報告、2. 2014年人事異動表、3. 2.11信教の自由セミナー(関東地区および関西地区集会報告)、4. 教団ニュース、5. 教会紹介:馬込沢キリスト教会、
- ◇ 国外宣教 NO.446、◇ MBC ゴールデンウィークのご案内、◇ 国外宣教50周年記念2014世界宣教大会

「JECA フォーラム NO.91」

(日本福音キリスト教会連合)

◇ 特集:北海道地区の開拓伝道

1. 「教会が教会を生み出す」DNAを受け継いで、2. 北海道地区に息づく宣教スピリット～その歴史から～、3. 北海道地区年代別宣教の進展

「保守バプテスト NO.196」

(保守バプテスト同盟)

1. 1月に錦秋湖で、第2回目のU-40河口キャンプを開催。20～30代若手牧師と献身を志す次世代リーダーが家族ぐるみで集まり、次世代の育成や「宣教と葬式」「国家と信仰告白」等の学びが行われた。

「ぶれすびてり NO.143」

(カンバーランド長老キリスト教会日本中会)

◇ テーマ:日本中会を知ろう(2)

1. 第75回定期中会会議報告。2月22日、希望が丘教会にて開催。2. カンバーランド長老教会女性按手への道



「JHC Revival 786号」
(日本ホーリネス教団)

1. 次世代育成—育つ喜び、育てる喜び—三多摩教区編①、
2. 世界ホーリネス教会連盟第20回総会報告、
3. 第66年会基調講演、
4. 兼牧支援制度のご案内

5月

「世の光 NO.764」
(日本同盟基督教団)

1. 教職者夫人の集い報告、
2. 新任教師派遣直前研修会、
3. 広域災害と教会の備え、
4. 教会支援：山の下福音教会、
5. 「東日本大震災から3年を迎えての祈りの集い」報告、
6. 教団ニュース、◇国内宣教 NO.171、◇国外宣教 NO.447、◇MBC夏キャンプニュース、◇国外宣教50周年記念 2014世界宣教大会

「インマヌエル教報 NO.814」
(インマヌエル綜合伝道団)

1. 教団創立70周年記念事業「70年の歴史に学び、次の時代に仕える」、
2. 聖書神学院から：4月4日、4名の新生を迎えて入学式・始業礼拝が行われた。
3. 今年から来年にかけて、各教区で信頼関係と伝道をテーマに役員・リーダー研修会を開催

「協力 NO.81」
(伝道団体連絡協議会)

1. 第30回総会の報告。4月25日、御茶ノ水クリスチャンセンターにて、加盟31団体中11団体の出席のもと開催。
2. 加盟団体の紹介：日本華人クリスチャンセンター、東京プレーヤーセンター。

「JHC Revival 787号」
(日本ホーリネス教団)

1. 次世代育成—育つ喜び、育てる喜び—三多摩教区編②、
2. 2014年度施政方針・第51回教団総会報告、
3. 2014年度新正教師・新補教師・新教師補紹介、
4. 「聖会説教の勉強会」の報告、
5. 「解釈改憲と聖書『権威の下に生きる』」、
6. ネヘミヤ・プロジェクト報告

「東京ミッション研究所ニュース 78号」

1. 2014年2月24日 冬季フォーラムより、シボジウム「今の時代に『次世代育成』を問う」

6月

「世の光 NO.765」
(日本同盟基督教団)

1. 教会紹介：くずは聖書教会、
2. 教団ニュース、
3. 救いの証し、◇「となり人」(社会厚生部だより、第55号)、◇MBC夏キャンプニュース、◇DS-Sanbi(青年部主催)、◇国外宣教 NO.448、◇浜名湖バイブルキャンプ2014小学生サマーキャンプ、◇国外宣教50周年記念 2014世界宣教大会

「インマヌエル教報 NO.815」
(インマヌエル綜合伝道団)

1. 教団創立70周年記念全国青年大会プログラム概要、
2. 4月29日大阪羽衣青少年センターにて、近畿・大阪教区合同の関西ユース・ステーションが開催された。
3. 4月24日厚木市戸田にて、新女性牧師ホームの献別式が挙行された。
4. 「祈りのネットワーク2014」が教会発行された。

「JHC Revival 788号」
(日本ホーリネス教団)

1. 次世代育成—育つ喜び、育てる喜び—三多摩教区編③、
2. 隠退者挨拶・新勧士紹介、
3. 新会堂紹介(松本教会、柵原教会、茅ヶ崎教会)、
4. 「ユースジャム2016」の第1回実行委員会を、4月20日東京中央協会にて開催。

「連合通信」

(日本バプテスト教会連合)

1. 連合の歩み(2014年3月~6月)、
2. 新任教会教職紹介、
3. 大野キリスト教会新会堂建設、
4. 2014年教職セミナー報告、
5. 連合協力宣教師便り、
6. 教会ニュース

「JCCJtimes NO.739」
(日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 協力教会制度に向かって、
2. 第80回塩屋聖会、
3. 2014年度教区長挨拶

神学校のニュースから

4月

「東京基督教大学大学報 145号」

◇ 特集：これからのTCU

1. 神学科・大学院：神学科神学専攻7名、教会教職専攻19名卒業、大学院修士課程神学研究・教育者コース4名、教会教職コース11名修了、2. 教会音楽専攻科2名修了、3. キリスト教福祉学専攻6名卒業、4. 国際キリスト教神学専攻6名卒業、5. テンプルトン・プロジェクトがスタート、6. 卒業生からの手紙、7. 支援会ニュース

「聖契神学校ニュース NO.120」

1. 塩の役目と光の役目、2. 入学試験と第61回卒業式を終えて新年度へ、3. 卒業生の証し：専門科11名、4. 入学生：正規生12名、聴講生6名

6月

「聖書宣教会通信 157号」

1. 聖書神学舎から、2. 2014年度新入会生：5名、2013年度卒業生 本科：9名、聖書科：2名、3. 図書館から

「西南学院大学神学部報 51号」

1. 2014年度始業礼拝奨励、2. 2013年度神学部卒業メッセージ、3. 2014年度卒業予定者紹介、4. 2013年度卒業生紹介：大学院神学研究科博士前期課程2年：9名、学部4年生：6名、キリスト教人文学コース：4名、5. 2014年度入学生 大学院博士後期課程1年：1名、博士前期課程1年：3名、専攻科：2名、学部3年次：(神学コース)3名、(人文学コース)1名、1年次(人文学コース)：7名、選科：3名、神学部研修生：2名

各学術雑誌の記事から

「宣教学ジャーナル 第7号」

(日本宣教会・2013.6)

◇ 論文：「東日本大震災に対する神学的応答－聖書と悪の問題」、「震災後の教会共同体の再創造」、「宣教のパラダイム転換－放射能汚染国家(エデンの東)で神学する」、「塵と灰のことで3・11後に何を宣教できるのか－ヨブ記42章6節におけるnahamの訳語をめぐって」

「福音主義神学 第44号」

(日本福音主義神学会・2013.12)

◇ ホリスティックな宣教－東日本大震災が投げかけるもの

[論文] 1. 被災地から問われる包括的福音－ローザンヌ運動の視点から、2. 教会は大震災にどう関わったのか－3・11支援教会、教団のリーダー達に聞く、3. 震災の中で教会を再発見する

「日本の神学 第52号」

(日本基督教学会・2013.9)

◇ 講演：日本キリスト教史における賀川豊彦
◇ シンポジウム：「賀川豊彦と現代・評価と展望」

「宣教と神学 NO.35」

(神戸ルーテル神学校神学誌・2013.12)

◇ 社会に生きるキリスト者

[論文] 1. ウォルター・ラウシェンブッシュによる「社会的福音」、2. 賀川忘却のメッセージ、3. 社会生活こそクリスチャン生活～甘えなく、気負いなく～

「伝道と神学 NO.3」

(東京神学大学総合研究所・2013.3)

◇ 日本伝道協議会九州大会 主題：九州地区における伝道

[講演] 伝えるべきことは、ただ一つ、[講演] 教団信仰告白の旗じるしにたって、[発題] 神には礼拝、人には伝道、[発題] キリストのからだをこの地に、[発題] 教区の現状と不可避な選択、[発題] 神への愛・隣人愛としての伝道

◇ [研究論文] 1. 伝道とは何か、2. 日本における道徳と宗教の教育－田中耕太郎の場合



「聖書と神学 25号」

(東京神学大学総合研究所・2013.7)

◇ 特集:「死生観」-3.11を超えて

[特集論文] 1. 新約聖書の死生観、2. 愛なる神の愛の中で-愛の観点からのイエスの行動理解、3. 老い、死、死後の生と信仰、[研究論文] 1. 環境倫理とキリスト教(後編)、2. 戦時期「国体」思想と「日本的キリスト教」(前編)、4. ChildishとChildlike-今日における、我が国のキリスト教教育の課題を考える

「紀要 第46号」

(明治学院大学・2014.1)

◇ 論文: 1. 日本人にとって讃美歌とはなにか、2. 沖縄と「本土」との関係性、3. 「神聖」天皇の非宗教化と現代

「紀要 キリスト教と文化 (28)」

(青山学院大学・2014.3)

◇ 論説: 1. キリスト教と人権思想-日本国憲法への影響をめぐって- 2. 「聖書」は「道徳」の代替か-道徳教科化の動きをめぐって-
◇ 講演: メソジスト高等教育 その特徴と実践~世界中の800校から学び進展する青山学院~

「キリスト教と文化 第12号」

(関東学院大学キリスト教と文化研究所報
2013年度・2014.3)

◇ 特別報告: 1. エネルギー・環境問題から見た原子力発電の意味とキリスト教の役割-『環境神学』の構築と課題(2)-
◇ 研究論文: 1. フレンド派(クエーカー)日本伝道の始まり ホイットニーとブレスウエイト、2. 宣教師ポール遠藤の生涯と文学-真にグローバルなキリスト教をもとめて-、3. 遠藤周作「男と猿と」論
◇ 研究ノート: 1. 内村鑑三のキリスト教思想におけるナショナリズムの一考察、2. アメリカの日本占領政策とキリスト教宣教にみる教育、3. 「教育の荒廃」をめぐる私立宗教系学校の試み-燈影学園の芸・作務・祈りのもつ可能性-

「神学研究 第61号」

(関西学院大学神学研究会・2014.3)

◇ 講演会

1. 今、この日本でキリスト者であって、科学者であるとはどういうことか、2. メソジストの精神と現代社会

「キリスト教文化研究所 紀要 32」

(上智大学キリスト教文化研究所・2014.3)

1. 死と向き合うということ-宮沢賢治の悲しみと恵み-、2. 人外の〈喪〉-動植物の〈送り〉儀礼から列島的生命観を考える-、3. 神道における「喪」の心とその形、[研究ノート]いのちを整える

「聖学院大学総合研究所紀要 NO. 56 2013」 (2013.10)

「第二回東日本大震災国際神学シンポジウム」報告

◇ 主題講演: 「神の忍耐の時」の中で、苦難の救い主に仕える、◇ パネルディスカッション: 「苦難に寄り添い前に向かう教会」

1. キリスト教大学の行うボランティアとは何か、2. 震災ボランティア活動と若者の宗教心の発達、3. カトリック教会の経験から、4. 心理臨床家として考えさせられていること、

◇ 分科会報告: 1. 東北のハリストス正教会、2. 被曝地フクシマに立つ教会、3. 福島放射能汚染の現状と課題、4. 大震災と心のケア-喪失と怒りへのケア、5. 震災における教派・教会をこえた出会い6. 3・11から学ぶキリスト者の災害応答、7. 被災地の子ども支援、子どもの心のゆくえ、8. 脱核の倫理の探求-日独戦後史をめぐる一断想、9. 弔いと宗教間協力-「弔い」と震災後の展開について、10. 国民統合、自衛隊と教会、11. 震災ボランティアにおける学生の意識、日本基督教団東北教区被災者支援センターエマオの歩み、◇ 全体会: 「教派教団を越えた働きについて」

1. 東日本大震災下におけるキリスト者の連携

JMRの活動

キリスト新聞社、クリスチャン新聞社、
JMRによる懇談会開催



2014年7月18日(金) 国際宣教センターにて

あとがき

「日本宣教ニュース」は、日本宣教に関係する最近の出来事や動向、各教団・教派の取り組み、あるいは雑誌や学術文献等でテーマや課題になっている事柄等、広く日本宣教に係わる「今」の情報を提供することを目的としています。

ここに、何とかその第1号を発行することができることを感謝しています。しかし、日本宣教に係わる情報と言っても、どこまでをその対象とし、範囲とするかは様々な見解があるかと思えます。まずは、現状入手可能な情報から、編者の独断にて取捨選択してまとめて見ました。今後、皆様のご意見やご要望をいただきながら、さらに充実した内容にしていけたらと願っていますので、「日本宣教リサーチ」宛てに、どしどしお寄せいただければ幸いです。

特に新聞に関しては、各新聞社のご了解を得て、新聞の記事を編者が要約して転載していますので、ご承知置きください。残念ながらカトリック新聞は、今回は不掲載となりました。また、「教団新報」も掲載が間に合いませんでしたが、今後、日本の最大の教団の動向を知る意味でも、次回からは掲載したいと思いますし、できれば英字系や韓国系のものも対象として範囲を広げていけたらと願っています。

雑誌に関しては、現在「キリスト新聞」で、毎月「雑誌を読む」というコーナーがあり、その月に出されたいくつかの雑誌から、主な掲載記事の紹介がなされていますが、「日本宣教ニュース」では、できるだけ多くの雑誌を対象に、どのようなテーマが取り上げられているかを知っていただくために、タイトルのみを記しています。

また、教団・教派や宣教団体、神学校の機関紙やニュースについては、現状資料提供をいただいているところのものからピックアップさせていただきました。

今後、さらにその範囲を広げていけるよう、各教団・教派や宣教団体、神学校等のご協力をお願いしたいと思っています。

学術雑誌に関しては、年に一回で、しかも年度の後半に発行されるものが多いため、今回第1号では、昨年度に発行されたものも対象にして掲載しました。

なお、「日本宣教ニュース」は、(財)国際宗教研究所 宗教リサーチセンターが発行している「ラーク便り」をお手本として作成したことを申し添えておきます。(初穂)



東京基督教大学 国際宣教センター 日本宣教リサーチ 【Japan Missions Research】



〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目 301-5
学校法人 東京キリスト教学園 東京基督教大学 国際宣教センター内
TEL: 0476-31-5522 FAX: 0476-31-5521 E-mail: jmr@tci.ac.jp
<http://www.tci.ac.jp/institution/fcc/jmr>

日本宣教リサーチ代表 山口 陽一(東京基督教大学大学院神学研究科委員長)
日本宣教リサーチ専門委員 柴田 初男、花蘭 征夫